



渚上北海道森林管理局長

地域のための 国有林となるために



各地区の世話人の皆様と
有意義な意見交換が行われました。

平成29年12月5日、北海道森林管理局において、平成29年度国有林野等所在市町村長有志連絡協議会を開催しました。

この連絡協議会は、道内の各森林管理署管内における地域社会と国有林野事業の連携の強化を図ることを目的として毎年開催しています。

10月には道内7カ所において各地区ごとに協議会を開催し、今回は、各地区の代表世話人である酒井新ひだか町長、池部南富良野町長、浅田天塩町長、菅原浜頓別町長、長屋滝上町長、金澤標津町長、山本共和町長にご出席いただいたほか、林野庁本庁より橋業務課長及び木暮施工企画調整室長が出席しました。

冒頭、渚上局長より、「一般会計化して5年目を迎え、森林管理局は地域とともに歩んでいく官庁として、地域にどのように貢献していくのか常に考え、地域の一員のつもりで頑張っ

ていきたい。」と開会の挨拶をしました。



林野庁
橋業務課長

また、林野庁の橋業務課長より、「現在、林野庁では本年6月に閣議決定された未来投資戦略2017に基づき、新たな森林管理システムの構築や、森林環境税の実現に重点的に取り組んでいる。地域のための森林・林業施策、地域のための国有林となっていけるよう、本日の意見を円滑な施策の遂行に反映していきたい。」との挨拶がありました。



代表世話人の
酒井新ひだか町長

その後、連絡協議会の代表世話人である酒井新ひだか町長に議事の進行をお願いし、議事に入りました。

議事では、林野庁本庁より、来年度予算概要要求の概要、森林吸収源対策の推進、林業成長産業化総合対策、国産材利用の推進、新たな森林管理システム等について説明があり、続いて北海道森林管理局より、平成28年度台風被害に係る災害復旧工事の進捗状況、レクリエーションの森を巡る近年の動向、コンテナ苗の安定的な生産体制構築に向けた取組等について説明しました。

さらに、各代表森林管理署長より道内7箇所で開催された各地区の協議会の概要について報告しました。

その後、各地の課題や関心事項として、分収林契約、森林環境税、流木対策、CLTの利用促進等について質問やコメントが出され、意見交換を

行いました。

最後に、渚上局長より「北海道森林管理局は林野庁の直轄組織として、本庁と一体となって本日出された課題等にもきちんと向き合っており、普段から町長の皆様とよく話をさせていた



左から、菅原浜頓別町長、浅田天塩町長、池部南富良野町長、長屋滝上町長、金澤標津町長、山本共和町長